https://www.isico.or.jp | June.2024 | vol.135

Ishikawa Sunrise Industries Creation Organization　新産業創出のための総合的支援情報誌

ISICO PRESS

P.02　巻頭特集

国が設置する無料の経営相談所
課題解決へ専門家が道筋照らす

石川県よろず支援拠点

（株）アルカディア／（株）どこでもナース

経営上の悩みや不安の解消に石川県よろず支援拠点を活用する「どこでもナース」（金沢市）の酒田社長。自費看護サービスやケアタクシー事業を手がけている。詳しくは巻頭特集をご覧ください。

【表紙撮影／黒川博司】

P.06　フロム・ユーザーズ
（株）ホリ乳業

P.08　サキドリ
疋田産業（株）

P.10
令和 6 年度組織体制

P.12
TOPICS

巻頭特集

国が設置する無料の経営相談所 課題解決へ専門家が道筋照らす

石川県よろず支援拠点

国がISICO内に設置する「石川県よろず支援拠点」が開設10周年を迎えた。同拠点では、中小企業・小規模事業者からの多岐にわたる経営相談に対し、中小企業診断士をはじめ各分野の専門家がきめ細かく対応し、課題解決をサポートしている。今回の巻頭特集では、支援した2社の事例とチーフコーディネーターからのメッセージを紹介する。

写真左）入浴介護リフトを備え、車椅子の利用者も入浴を楽しめる「やさしいお風呂」。

写真右）石川県よろず支援拠点を利用して事業を再構築し、収益性を高めた畑社長。

CASE 01

完全バリアフリー型の貸し切り風呂 助言受け、補助金活用して事業化

（株）アルカディア

小松市小島町ル41
TEL. 0761-21-8911

■代 表 者	畑 徹郎	■事業内容	
■設　　立	2012年4月		ビジネスホテル・公衆浴場・
■資 本 金	3,500万円		貸し切り風呂の運営
■従業員数	33名		

ホームページ

障害者も楽しめる温泉 10種類から選べる浴室

アルカディアが運営する小松グリーンホテルにある天然温泉の貸し切り風呂「十湯物語」が好評だ。その名の通り、植物が青々と茂り、子どもが遊べる滑り台も備えた「ジャングル」、露天風呂付きで山並みを一望できる「白山」など、趣向を凝らした10の浴室を備える。

さらに特徴的なのが浴室のバリアフリー対応だ。例えば「やさしいお風呂」と名付けた浴室は、段差のないフロア、手すりの設置はもちろん、入浴介護リフトが壁に備え付けられ、車椅子の利用者や重度の障害者も温泉を楽しむことができる。

また、「金箔」「漆」と名付けられた浴室では、半身不随となり、浴槽をまたいで入れない障害者が腰掛けたまま、脱衣所から浴槽まで移動できる台が設置できるよう工夫されている。安全に入浴できるよう、浴槽は深さ20センチから3段階で徐々に深くなる形状となっている。

どの浴室も源泉かけ流しで、よく温まり、肌もすべすべになると評判だ。週末には順番待ちができるほ

どの人気ぶりで、2022年3月のオープン以降、同社の新たな収益の柱となっている。

コロナで売り上げ7割減 貸付金の返済に不安

十湯物語の整備を加速させる役割を担ったのが、石川県よろず支援拠点である。

話は2020年にさかのぼる。その前年まで、小松グリーンホテルは平均稼働率が約8割と忙しい状況が続いていた。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大によって経済活動が停滞すると、売り上げがそれまでの3割ほどに落ち込んだ。

コロナ禍を何とか乗り切ろうと畑徹郎社長は日本政策金融公庫から新型コロナウイルス感染症特別貸付を受けた。この貸付金の返済が始まるのは3年後である。とはいえ同ホテルは客室数が46と規模が小さく、たとえコロナが収束し、稼働率が回復したとしても返済が滞るのではと不安が募った。

返済に向け、新たな収益源として思い浮かんだのが、自慢の天然温泉を生かした貸し切り風呂を拡充する構想だった。3密を避けるには貸し切り風呂はぴったりだ。同ホテルでは大浴場と貸し切り風呂3室を備えた公衆浴場を運営し、好評を得ており、稼働率の低い2階の会議室を改装して浴室を増設すれば、新たな収益の柱になると期待できた。

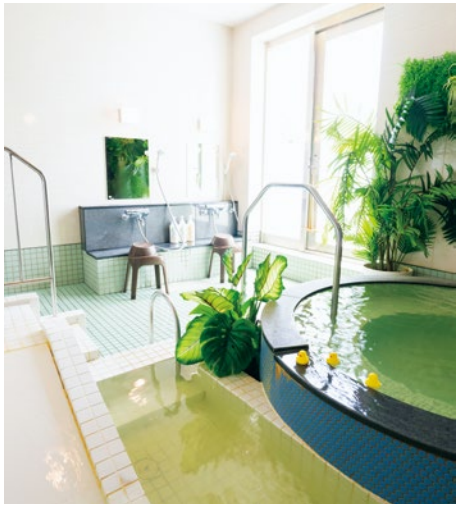
しかし、貸し切り風呂を整備するには特別貸付だけでは足らない。追加の資金を調達するため畑社長は商工中金に相談。融資のためには経営改善計画が必要であり、計画策定に向け商工中金の担当者が紹介したのが石川県よろず支援拠点だった。

福祉施設を見学し、計画をブラッシュアップ

相談を受けた石川県よろず支援拠点のコーディネーターは、コロナ禍でダメージを受けた中小企業のチャレンジを支援するため新設された事業再構築補助金の活用を提案した。畑社長は融資よりもメリットが大きいと判断し、補助金獲得にチャレンジすることに決めた。

貸し切り風呂はウィズコロナ時代にぴったりの施設だが、補助金の申請には従来にない新たな事業コンセプトが必要だった。そこで畑社長が打ち出したのが完全バリアフリー型の貸し切り風呂だ。「母親の足が不自由だったこともあり、障害者でも楽に入れる風呂を作ってあげたいと思っていた」（畑社長）ことが発想の原点だった。

事業計画の策定にあたって畑社長は石川県リハビリテーションセンターを見学し、車椅子の利用者や半身不随の人の入浴の仕方などを学んだ。また、「視覚障害者でも同行者の説明を心のスクリーンに映して見る。だから浴室を無機質な空間にしてほしくない」との声を聞き、バリエーション豊かな浴室を考案した。



植物が茂り、滑り台（左下）も付いた「ジャングル」は子ども連れに人気の浴室だ。

「事業再構築補助金の申請書はとても難しく、書いていて分からないことがたくさんあった。そのたびにコーディネーターに相談に乗ってもらった」と振り返る畑社長。苦労のかいあって第1回の公募で採択された。

その後、1階に3室あった貸し切り風呂を1室にして、重度障害者でも入れる完全バリアフリー対応にした。2階の会議室は9室の貸し切り風呂に改装した。

オープン4カ月後に収益が黒字化

テレビCMやタウン誌、SNSなどでの情報発信が奏功し、客足は好調だ。高齢者や障害者はもちろん、小さな子どものいる夫婦などに喜ばれ、富山県や福井県から通う常連客もいる。

現在、1日当たりの全室平均回転率は4.3にまで上昇している。改装前にほぼ稼働していなかった会議室が、月数百万円を売り上げるスペースに変わり、オープン4カ月後には収益が黒字に転じた。資金繰りも改善し、賃上げも実現した。

石川県よろず支援拠点には今でも月1回、必ず足を運んで状況を報告し、助言をもらっている畑社長。「高級旅館で長く勤務した経験を持つコーディネーターが、的確で具体的なアドバイスをしてくれる」と笑顔を見せ、これからも企業体質の強化を見据え、同拠点をフル活用する考えだ。

写真左）左側に見える台を使って、脱衣所から浴槽まで座ったまま移動できる「漆」。

写真右）小松グリーンホテルの外観。北陸自動車道小松インターを下りるとすぐに大きな看板が目に入る。

写真左）民間救急に必要な資機材を積んだ車両でケアタクシー事業を展開。車椅子やストレッチャーでの乗車も可能だ。

写真右）6年前に起業し、医療的ケアを必要とする人の外出や移動などをサポートする酒田社長。

CASE 02

起業後に会計業務でつまずき 税理士のアドバイスで解決

（株）どこでもナース

金沢市北安江1-4-12
TEL. 090-8269-2944

■代 表 者　酒田 祥子
■設　　立　2018年7月
■事業内容　自費看護サービス事業、民間患者等搬送事業

ホームページ

看護師による付き添いや移動サービスを事業化

「どこでもナース」では、看護師が時間や場所を問わず患者をサポートする自費看護サービスを展開している。例えば、孫の結婚式への出席、長時間の買い物や旅行、入院先からの一時帰宅など、さまざまなニーズに対して経験豊富な看護師が付き添い、手助けしてくれる。医療保険や介護保険では対応できない場面でも利用が可能だ。

点滴を欠かせない、あるいは呼吸の状態が不安定な患者の家族など、利用者からは「看護師が付き添ってくれるので安心」と好評を得ている。

2023年8月からは高齢者や傷病者の移動を支援するケアタクシー事業も開始した。車両には医療用酸素やたんの吸引器などを搭載するほか、リフトを完備し、車椅子やストレッチャーでの乗車も可能だ。看護師自らが運転するサービスは県内でも初めてだ。

年初の能登半島地震以降、増えているのが被災者の搬送だ。当初は被災地から金沢の基幹病院に収容された高齢者らの転院を数多くサポートした。現在は金沢から奥能登の病院や施設に戻る際の利用が増えているという。

亡き母の思いを胸に訪問看護の道へ

同社を立ち上げた酒田祥子社長は福井県出身。看護師資格を取得後、福井県内の総合病院に勤め、さまざまな診療科でキャリアを積んできた。

転機となったのは、約10年前に看護師だった母をがんで亡くしたことだった。病院を辞め、母を看病した酒田社長は「人が亡くなっていくのを見るのは辛い」と復職せず別の仕事に就いた。気持ちが落ち着いてきた頃、母の親友から「娘が看護師なったことを誇りに思っていた。お母さんは祥子ちゃんが看護師に戻るのを願っていると思うよ」と声をかけられ、再び看護師として働く気持ちが湧き上がった。

再就職を前に思い浮かんだのが、母を在宅看護する際、心のよりどころになった訪問看護師の姿だった。患者はもちろん、闘病生活を支える家族にも寄り添える仕事をしたいと訪問看護の会社に就職した。

訪問看護師として働くうちに直面したのが公的保険ではまかなえないさまざまな困りごとだった。これらのニーズに応える事業を展開すれば多くの人の笑顔につながるのではと、転勤先の金沢での起業を決めた。自費看護サービスの会社は北陸初だった。

悩みや不安があれば、必ず相談に

酒田社長は少しでも信用を高めたいと考え、個人事業ではなく株式会社として事業をスタートした。「何でも自分でこなすのが好きで節約にもなるから」と会社の登記や商標登録、ホームページの制作をはじめ、二種免許を取得してケアタクシーの運転までする酒田社長だが、起業してつまずいたのが会計業務だった。

「税理士に頼まず、会計ソフトを使って自分で処理していたが、仕訳の方法などは自信がなく、決算書の見方や確定申告の手続きも分からなかった」（酒田社長）。

そんなとき、ネット検索で知ったのが、ISICOが運営する石川県よろず支援拠点だった。以来、会計業務で不安があれば、必ず相談に訪れる。酒田社長は「専門家に無料で何度でも相談できるので頼りにしている」と話す。

自作のちらしを病院の地域連携室や地域包括支援センター、福祉施設などに配布し、PRするうち、徐々に認知度が高まり、年々利用者は増えている。現在は看護師資格を持つ6人と業務委託契約を結び、増加する依頼に応えている。「自分の目が届く範囲でやりたい」と事業規模の拡大は考えていないが、移動支援から付き添いまで、ワンストップで提供するサービスに磨きをかけようと今日も腕まくりする。

対話から経営者自身が気付いていない本質的な課題を掘り起こし伴走支援

石川県よろず支援拠点は開設から10周年を迎えました。3代目チーフコーディネーターとして同拠点をまとめる西中浩一に、相談体制などについて聞きました。

石川県よろず支援拠点は国が設置する無料の経営相談所です。中小企業診断士をはじめ、弁護士、税理士、社会保険労務士、ITコーディネータなど20人の専門家が所属し、対応しています。昨年度の相談件数は4,700件に達しました。無料で何回でも利用可能で、2週間に一度、相談に来る方もいます。

一番多いのは補助金の活用に関する相談です。二番目が事業計画の作成について、三番目が決算書の読み方など経営知識についてです。石川では創業に関する相談も多くなっており、金沢市や商工会議所と連携して対応しています。複数の専門家によるチーム体制で、対話と傾聴により経営者自身が気付いていない本質的な課題を掘り起こし、継続的にフォローする伴走支援を心がけています。

ISICOでは事業承継・引継ぎ支援センターや再生支援を専門とする事業活性化支援室といった国の機関も運営しています。さらに、同じ建物内に県商工会連合会や日本貿易振興機構（ジェトロ）、いしかわ農業総合支援機構（INATO）等もあるため、相談内容に応じて、これらの機関と連携して支援できる点が強みと言えます。

相談は予約制で、予約は電話のほか、ウェブサイトやLINEでも受け付けています。ISICOのほか、小松商工会議所内に加賀サテライト、七尾商工会議所内に能登サテライトを設けています。

経営者は一人で悩みを抱え込む方も多いと思います。少し気になることがある、あるいは第三者の意見を聞いてみたいといったことでも構いません。まずはお話することから始めましょう。

石川県よろず支援拠点
チーフコーディネーター
西中浩一

■お問い合わせ
石川県よろず支援拠点
（ISICO内）
TEL.076-267-6711

ホームページ

From users
フロム・ユーザーズ

ホリ乳業が製造するA2ミルク。現在、ホリ牧場産の原料を使った「河北潟A2牧場牛乳」に加え、北海道産の原料を使った「日本A2協会牛乳」も製造している。

おなかに優しい「A2ミルク」の製造を開始 ウェブ受注システムの導入で効率アップも

牛乳やヨーグルトなどを製造、販売するホリ乳業は今年2月、金沢市専光寺町に本社と工場を新築移転した。新工場ではおなかに優しいと注目を集める「A2ミルク」の製造を新たにスタート。また、ISICOのデジタル化設備導入支援事業を活用してウェブ受注システムを導入するなどして、業務の効率化を進めている。

消化不良を引き起こすタンパク質を含まず

新たに建設した本社と新工場は、敷地面積が約1万4,600平方メートル、延べ床面積が約4,600平方メートル。金沢市袋畠町の旧工場と比べ、牛乳は約3倍、ヨーグルトは約2.5倍の生産能力を有する。全工程で洗浄・殺菌レベルを高め、細菌汚染の原因を減らす「ESL設備」を導入し、紙パック牛乳の賞味期限を従来の7日から12日まで延長することが可能になった。

金沢外環状道路海側幹線沿いにある新工場。牛の模型と牛乳パック型の看板が目を引く。

この新工場で、ホリ乳業が将来の主力商品として期待をかけ、製造を開始したのがA2ミルクだ。A2ミルクと一般的な牛乳の違いは、βカゼインというタンパク質の差異にある。βカゼインにはA1型とA2型の2種類があり、一般的な牛乳が両方を含んでいるのに対し、A2ミルクはA2型だけを含んでいる。

A1型のβカゼインは消化不良の原因であり、これを含まないA2ミルクは飲んでもおなかを壊しにくいのが特徴だ。堀初治社長は「日本人の5人に1人は牛乳を飲むとおなかがゴロゴロすると言われている。牛乳を飲みたいけれども、おなかが弱くて敬遠していた人にぜひ飲んでほしい」と話す。

徹底した品質管理で第三者機関から認証第1号

A2ミルクは、一般的な牛乳に何らかの加工を施して作るわけではなく、A2型遺伝子だけを持つ牛が出す生乳を加熱殺菌して紙パックに詰めたものだ。ちなみに該当する牛は全体の3割程度にとどまる。

そのため、同社ではA2ミルクの製造に先立ち、原料を供給する関連会社・ホリ牧場の牛の遺伝子を調べて選別し、5棟の牛舎のうち、1棟をA2型遺伝

子だけを持つ乳牛の専用にした。工場では、一般的な牛乳もA2ミルクも同じラインを使うが、操業後に機器を洗浄した後、朝一番でA2ミルクを製造することで、混入を防いでいる。紙パックへの充てん後にもA1型のβカゼインが混ざっていないか、定期的に検査を実施する。

徹底した品質管理が認められ、ホリ乳業は第三者機関である日本A2ミルク協会から認証を得た。国内では現在、6社ほどがA2ミルクを製造しているが、同協会からお墨付きを得たのは同社が第1号だった。

同社がA2ミルクの製造に乗り出した理由は、その付加価値の高さにある。牛乳はそもそも差別化が難しい商品で、価格競争になりやすい。その点、A2ミルクは機能性に優れている分、安売りを回避できる。同社のA2ミルクは一般的な牛乳よりも5割ほど高い360円で販売しており、堀社長は「収益性が高く、酪農家にもより多く還元できる」と説明する。

販路は石川県内のスーパーにとどまらず、首都圏や関西圏、中京圏のイオンの一部店舗や食品スーパーに広がり、売れ行きは徐々に伸びている。国内ではA2ミルクの認知度はまだまだ低いものの、オーストラリアやニュージーランドなど海外では既に人気が高まっている。今後その機能性が周知されれば、国内でもニーズはぐっと高まると期待し、堀社長は「ISICOの販路開拓アドバイザーにも協力を仰ぎ、A2ミルクの良さをしっかりとPRできるこだわりの食品を扱うスーパーや生協、食品宅配事業者といった販路を開拓したい」と話す。

受注のシステム化で手間が省け、ミス激減

また、ホリ乳業ではISICOの支援メニューを活用し、業務の効率化にも取り組んでいる。昨年、デジタル化設備導入支援事業を活用して導入したのがウェブ受注システムだ。

同社では従来、問屋や幼稚園、保育園、給食会社といった地元の顧客からの注文をファクスで受け付け、ドライバーがタブレット端末に入力し、倉庫から商品を集めて配送していた。現在は顧客がウェブ上で注文するとそのデータが自動的に販売管理システムに反映されるようになっている。入力業務の手間や打ち間違いがなくなった結果、ドライバーの受注業務時間は月165時間から80時間に減少した。

今年2月から新工場で稼働している紙パックへの充てんライン(写真左)と殺菌装置。

思いがけないメリットもあった。ウェブ受注システムでは、同社が扱うすべての商品が表示されるため、リピート品以外の商品の注文が増えたのだ。

このほか、顧客が電子発注システムなどを使って配信してくる注文もRPA(※)を使うなどして、定時に自動的に販売管理システムに取り込むようにした。この結果、受注量が旧工場の2倍となっている現状でも、入力業務の作業者が従来の7.5人から5.5人に減り、大幅な効率化とさらなる受注増に対応できる体制づくりが進んだ。同社のような日配食品メーカーでの受注はまだファクスが主流で、こうしたシステムの活用は先進的な取り組みだ。

新工場では指の静脈認証を利用する勤怠管理システムも導入した。このデータを活用した給与の自動計算や給与明細のメール配信も始まった。今後は原料の在庫や賞味期限の管理もシステム化する予定で、新たな拠点の整備を契機に一層の効率化を追求していく。

(※)RPA:ロボティックプロセスオートメーション。定型的な事務作業の自動化

乳成分を使わず大豆で作ったヨーグルトなど、独自性の強い商品の開発に力を入れる堀社長。

(株)ホリ乳業

金沢市専光寺町ホ22-1
TEL.076-267-2740

代表者	堀初治
設立	1932年3月
資本金	4,000万円
従業員数	110名(パート・アルバイト含む)
事業内容	牛乳、ヨーグルトなどの製造・販売

ホームページ

SAKIDORI
サキドリ

県内2社と連携し、共同配送の実現へ DXにも力を注ぐ

写真左）複数のメーカーの産業用ロボットを常時展示する金沢ロボットセンター。

写真右）自社のDXを推進する一方、自動化・省力化に向けた取引先への提案にも力を入れる疋田社長。

疋田産業は県とISICOが創設した「成長戦略ファンド」の後押しを受け、県内企業2社と協力し、取引先への共同配送体制の構築に乗り出した。DXにも積極的に取り組み、業務の効率化を加速させている。

共通の取引先へ 年内に試験運行

機械部品などを販売する疋田産業では現在、金沢機工（金沢市）、北菱電興（同）と連携し、共通する取引先への共同配送体制の構築について検討を進めている。

3社は現在、配送する際に自社の車で運んだり、運送会社に委託したりしているが、40社ほどの取引先が共通しているため、共同便に荷物を集約して配送することで、コストや荷受け回数の削減、積載率の向上、二酸化炭素の排出量削減といった効果を期待する。ドライバーの残業規制が強化され、人手不足が懸念される物流の2024年問題への対応にもつながる。

運行開始に向け、3社の配送業務の現状を把握するため打ち合わせを重ねており、試験運行や配送管理システムの開発にかかる費用の一部については成長戦略ファンドの助成金を活用する。

試験運行は年内に開始する予定で、課題を抽出した上で、より効率的な共同配送体制を構築する考えだ。

疋田産業（株）

白山市旭丘4丁目11番地
TEL. 076-275-7531

代表者	疋田 弘一
創　業	1907年
資本金	4,500万円
従業員数	95名
事業内容	機械部品・工作機械・工業用資材の販売

会社ホームページ

金沢ロボットセンターホームページ

ファクスで送られてくる注文票の入力を自動化

疋田産業ではこれにとどまらず、近年さまざまな業務効率化に力を入れている。その一つが2021年度にISICOのデジタル化設備導入支援事業に採択されて取り組んだAI-OCRを活用した注文データの自動入力だ。

OCRとは画像データに記載されている文字を読み取り、データに変換する機能のこと。これにAIを組み合わせることで文字の認識精度が大幅に向上する。

同社では従来、取引先から毎日ファクスで送られてくる注文票を手作業で受発注システムに入力していたが、この業務にAI-OCRを活用し、受注入力業務にかける手間を20%ほど削減した。同時に、取引先からEDI（企業間電子データ交換）システムによって送られてくる取引データについても、一旦印刷し、手作業で受発注システムに入力するやり方を改め、自動化した。

議論の様子や成功事例を共有して意識改革

同社は2022年度にも再びISICOのデジタル化設備導入支援事業の採択を受け、RPAを導入した。

RPAは人がパソコンで行っている定型的な事務作業を専用のソフトウェアを使って自動化する技術だ。同社では機械部品などの注文を受けた後、仕入れ先から送られてきた納期の情報を基幹システムに入力する作業を自動化するなど、現在7件の業務をRPA化している。

ITを活用して業務の効率化を進めるため、同社では2021年に組織横断型の「DX推進チーム」を結成。営業、業務、総務経理、倉庫と担当を振り分けて、各種システムの導入や活用を推進したほか、議論の経過など活動状況はビジネスチャットツール「Microsoft Teams」に掲載し、見える化した。

当初は既存の業務プロセスを変えることに対して抵抗感を感じる社員もいたが、成功事例を共有したり、チームのメンバーが各拠点に出向いてデモンストレーションしたりすることで意識改革につなげた。これまで述べた以外にも、SFA（営業支援システム）を導入し、データを活用した営業強化などにも注力している。

こうした取り組みが評価され、同社は経済産業省が中堅・中小企業のDXのモデルケースを発掘する「DXセレクション2024」において、県内企業として初めて優良事例に選定された。今後は倉庫内作業の自動化なども検討する。

ロボットセンターを開設し地元製造業のDXも支援

同社では自社だけでなく、取引先のDXに対しても提案力を強化しようと、2023年春に金沢市若宮町で「金沢ロボットセンター」を開設した。

同センターには産業用ロボット7台とAGV（無人搬送車）システム1台を展示する。複数メーカーのロボットを集めて展示する施設としては北陸最大級。同社のインストラクターによる、労働安全衛生規則に基づいた特別安全教育も実施可能だ。今後は実際のワークを使ったテストもできるようになる。

「ロボットは導入企業のニーズに応じてカスタマイズする必要があり、この際、要素部品を扱う商社の強みを生かすことができる。地方では数少ない、ロボットの導入提案から設備の製造、設置、アフターサポートまで対応するシステムインテグレーターとして、人手不足に悩む企業の自動化や省力化をお手伝いしたい」と話す疋田弘一社長。開設後、相談件数は着実に増えており、現在数%に過ぎないロボット関連の売り上げをゆくゆくは15～20%まで引き上げたいと考えている。

写真上）白山本社の外観。機械部品などを幅広く取り扱い、北陸の製造業を支える。

写真下）白山本社のオフィス。AI-OCRやRPAの導入により、業務の効率化を進めている。

令和6年度 ISICO組織体制紹介

総務企画部

- 組織の管理と事業の総合調整
- 広報・産業情報の発信、産業人材の確保・育成支援
- サイエンスパークの活性化の推進

総務課
TEL.076-267-1239

組織の人事管理と事業の総合調整を行っています。

■ 能登サテライト
TEL.0768-26-2333

能登地域の拠点として、各種支援制度の情報提供、相談に対応します。

企画広報課
TEL.076-267-1239

ホームページやメルマガ、情報誌、ライブラリなどを通して各種ビジネス情報を発信しています。また、人材アドバイザーによる産業人材の確保・育成に関する窓口相談や、各種セミナーを実施します。

サイエンスパークオフィス
TEL.0761-51-0122

サイエンスパーク内の各施設の管理運営を通して、産学官連携の促進と新産業の創出を支援します。

石川ハイテク交流センター
TEL.0761-51-0106

最大220名を収容できる大会議場、少人数から100名まで対応できる会議室や、宿泊施設を備えています。また、北陸先端科学技術大学院大学やサイエンスパーク内企業への来訪者に対しては宿泊料金の割引サービスも実施しています。

いしかわクリエイトラボ
TEL.0761-51-7100

創業間もない事業者や研究意欲にあふれる中小企業などをサポートするインキュベート施設です。24時間・365日利用可能な5㎡、25㎡、50㎡の3種類の大きさのスペースを低賃料で貸し出しています。また、シャワールーム、仮眠室なども整備しています。

いしかわフロンティアラボ

新製品の研究開発など、創造的なビジネスを進めるベンチャー企業等が、ローコストで利用できる独立型の賃貸スペースです。

企業振興部

- 企業のデジタル化の推進、設備導入支援
- 受注開拓支援、販路開拓支援

設備導入支援課
TEL.076-267-1174

中小企業者等の設備導入に向けて、デジタルセミナーの開催、専門家派遣（デジタル分野）、設備貸与（割賦販売）等により支援します。

受注開拓支援課
TEL.076-267-1140

県内中小企業の技術・製品開発力を、県外大手・中堅企業へ紹介・あっせんし、新規受注の拡大を図っています。また、受注機会の拡大のため、各種展示会・懇談会等を開催します。

販路開拓支援課
TEL.076-267-1001

地域資源を活用した新商品や石川ブランド製品等を全国のバイヤーに橋渡しし、販路開拓を支援しています。また、全国規模の専門展示会への出展や、首都圏バイヤーを対象とした商談会の開催、インターネットを活用した販路開拓を支援します。

コンサルティング事業部

- 中小企業の経営課題解決に向けた総合支援
- 事業承継の円滑なバトンタッチの支援
- 中小企業の経営改善や事業再生の支援

経営支援課
TEL.076-267-1244

創業者や中小企業の各種経営課題解決に向け、アドバイザーが窓口相談を行うほか、中小企業診断士など外部の専門家を派遣し、具体的・実践的なアドバイスも行っています。また、創業・新分野進出・事業転換などの新規事業の立ち上げや知的財産の活用を支援します。

よろず支援拠点
TEL.076-267-6711

■ 加賀サテライト（小松） TEL.0761-21-1139
■ 能登サテライト（七尾） TEL.0767-52-1225

多様な分野の専門家が在籍し、中小企業・小規模事業者の売上拡大や経営改善等の経営課題の解決に向けサポートします。

事業承継・引継ぎ支援センター
TEL.076-256-1031

親族内承継や第三者承継など、事業承継に関する相談に対応するほか、事業承継計画の策定支援やマッチング支援を行います。

事業活性化支援室
TEL.076-267-1189

「中小企業の駆け込み寺」として、幅広い中小企業者の相談に対応します。収益力改善、経営改善、事業再生、再チャレンジを総合的に支援します。

能登産業復興相談センター
TEL.0767-58-5008

能登半島地震により被害を受けた事業者の二重債務問題への対応や資金繰り等の経営相談、金融相談に応じます。

■ 奥能登サテライトオフィス（輪島） TEL.0768-23-4707

成長プロジェクト推進部

- スタートアップをはじめとする中小企業等の新事業・新産業の創出支援

産学官金連携支援課
TEL.076-267-6291

産学官金連携によるいしかわ新事業創出支援コンソーシアムの運営、成長戦略ファンドの管理運営により、技術シーズ・企業ニーズの調査、新たな案件発掘から事業化までを支援します。

スタートアップ支援課
TEL.076-267-6291

将来の成長が期待されるスタートアップ企業を発掘し、成長段階に応じて資金・経営・マッチングなど集中的に支援します。

イノベーション支援課
TEL.076-267-6291

DX、GXに向けた研究開発など、産学官・産業間連携による共同研究や技術開発を支援します。

新商品・サービス開発支援課
TEL.076-267-5551

農林水産品や伝統工芸品、観光資源などの地域資源を活用した新商品・新サービスの開発から販路開拓までを総合的に支援します。また、農商工連携や医商工連携の取り組みを推進します。

地場産業振興センター

- 産学官交流・人材養成の拠点
- 需要開拓の支援

管理課
TEL.076-268-2010

産学官の交流や人材養成のための研修・会議のほか、地場産品を中心とした商品等の展示・商談会などの場を提供しています。施設としては、研修や会議、展示会や商談会などの企業ニーズにあったさまざまな活動の場を提供します。

企画展示課
TEL.076-268-2010

石川県内企業等が開発した新商品や、県・ISICO等支援機関の推奨品を紹介しています。また、展示会を企画・運営し、新商品企画や商品PR、需要拡大を支援します。

TOPICS

石川県×ISICO×東大先端研

「東京大学先端科学技術研究センター連携セミナー」開催

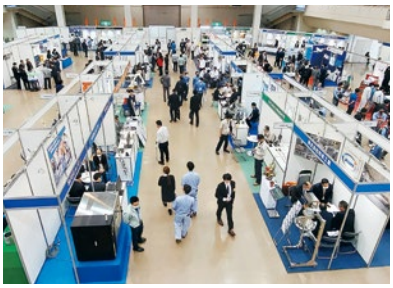
石川県とISICOは4月17日、連携協定を結んでいる東京大学先端科学技術研究センターの教授を招き、最先端の研究内容や事例を紹介するセミナーを県地場産業振興センターで開催しました。

持続可能な社会への移行に向けて、開発から生産、リサイクルまでの事業活動の環境負荷を動的に定量化する「ライフサイクルアセスメント（LCA）」や、限りある資源を有効活用して付加価値を生み出す「サーキュラーエコノミー」の考え方について、受講者は熱心に耳を傾けていました。

県内中小企業の技術力を発信

「ビジネス創造フェア いしかわ2024」開催

ISICOは5月16日から18日にかけて、機械金属を中心とした優秀な加工技術や製品をPRする展示会「ビジネス創造フェアいしかわ2024」を石川県産業展示館2号館で開催しました。初日には、県外発注企業の担当者を招いての展示商談会も実施し、企業間の交流や意見交換が行われるなど活発な商談会となりました。また県内企業61社が出展し、来場者に対して加工技術や製品開発力をアピールしていました。



県内で事業化を目指す挑戦者を募集中!

スタートアップビジネスプラン コンテストいしかわ2024

石川県とISICOは石川県内で事業化されるユニークなビジネスプランを全国から募集しています。

最優秀起業家賞として最大600万円、優秀起業家賞は最大200万円の補助金を受けられるなどのメリットがあります。事業計画の策定について必要な知識を学べるビジネスプラン作成セミナーも7月8日に開催予定です。また個別相談会も随時行います。

石川県内での地域課題解決に興味のある方や熱い思いを胸に起業をお考えの方は、ぜひチャレンジしてください。

START UP BUSINESS PLAN CONTEST ISHIKAWA 2024
スタートアップ ビジネスプランコンテスト いしかわ2024

編集後記

情報誌担当2年目となりました。昨年は、めまぐるしくあっという間の1年間でした。今年度も読者の皆さまにとって何か『ピンッ!』とくるような誌面ができたらいいなと思いますので、よろしくお願いいたします。さて、今回の巻頭で紹介している小松グリーンホテル内の貸し切り風呂に私も家族で行ってきました。お風呂の中に大きなテレビがあったり、子ども用に貸し出すおもちゃがあったりして、子どもたちは大はしゃぎで入っていました。今度はゆったりサウナ付きの貸し切り風呂へ入ってみたいです。サウナへ入った後はジュースとアイスを二刀流で食べても許される雰囲気があるので、サウナ後の冷たいものとカロリーの取り過ぎには気を付けたいですね。次号もお楽しみに!! (F)

能登のために、石川のために 応援消費おねがいプロジェクト 石川県

「能登のために、石川のために
応援消費おねがいプロジェクト」
JAPAN HEART（石川県）

詳しくはこちら

Ishikawa Sunrise Industries Creation Organization

公益財団法人
石川県
産業創出支援機構 ISICO
Ishikawa Sunrise Industries Creation Organization

お問い合わせ
TEL. 076-267-1001
FAX. 076-268-4911
MAIL. info@isico.or.jp

〒920-8203 石川県金沢市鞍月2丁目20番地
石川県地場産業振興センター新館
https://www.isico.or.jp/

［発行月］2024年6月（年6回発行）［編集協力］（有）ライターハウス／金沢市問屋町1-90［印刷所］（株）橋本確文堂／金沢市増泉4-10-10

UD FONT 本文には見やすいユニバーサルデザインフォントを使用しています。